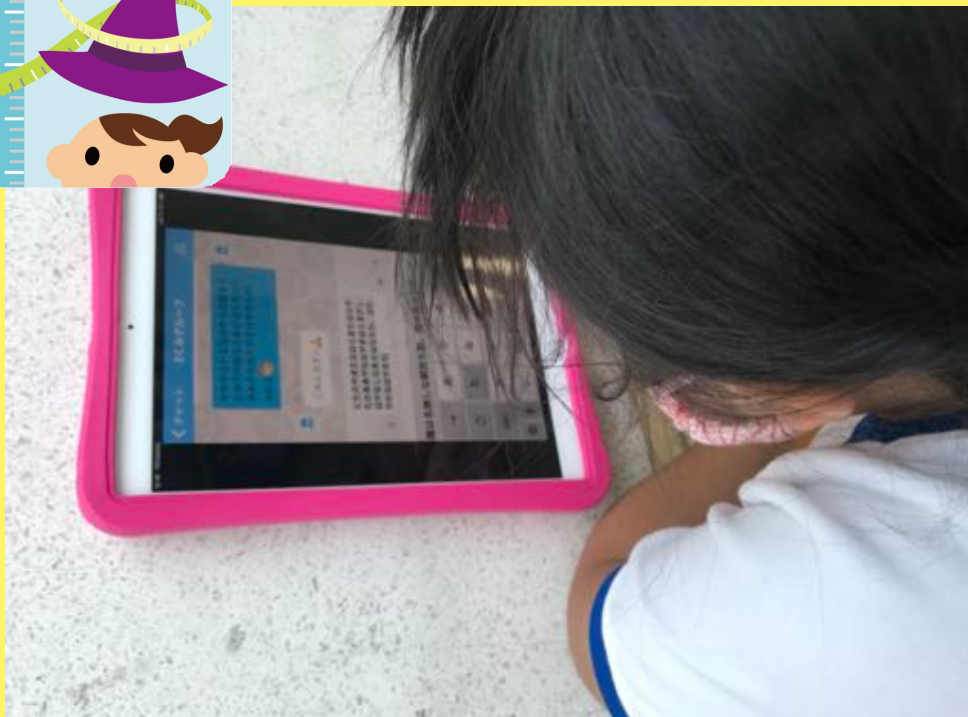


# 「ICT」を使って、周囲とのコミュニケーションを広げよう

魔法のプロジェクト2021 ～魔法のMeasure～ 夏季セミナー



2021年度 魔法のMeasure



2020年度 魔法のMedicine



大阪府立寝屋川支援学校 日置節子

学校生活の始まりの時期にいる小学部低学年の子どもたちとの実践の中で

## チャット 画像

基本的かつシンプルな機能を使ったコミュニケーション

「自分で使うことができる」

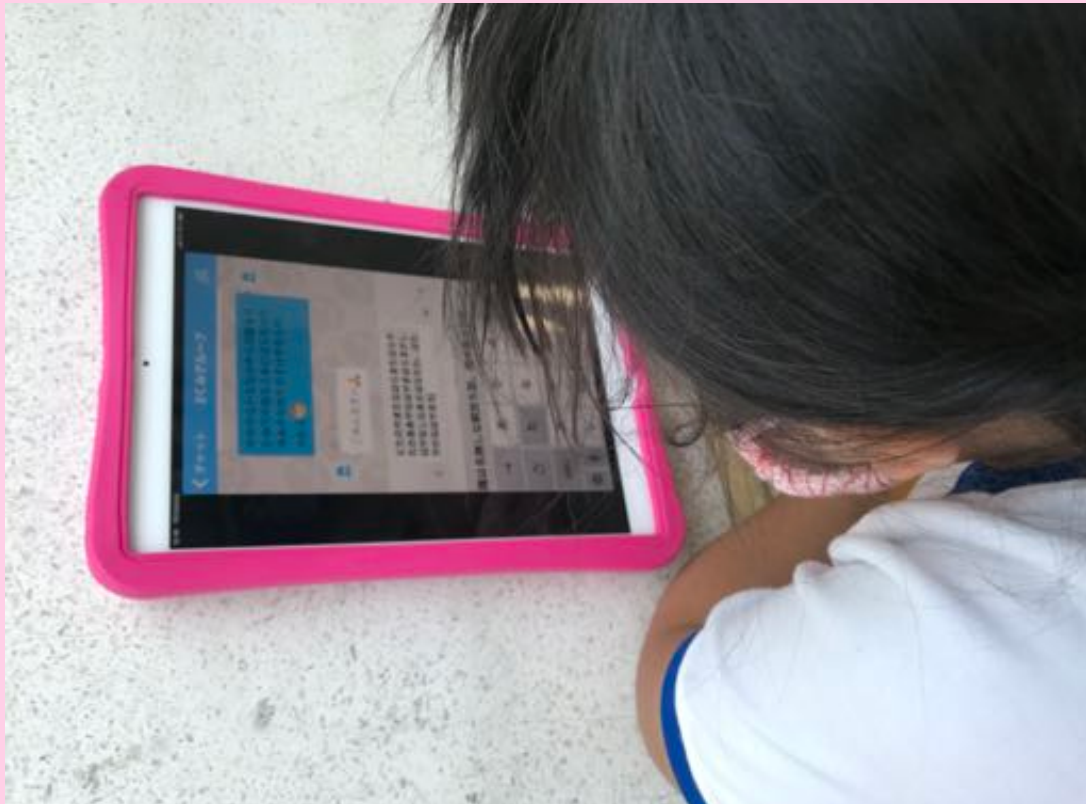
「どんな相手にも分かりやすい」

やりとりの広がり

楽しさ、嬉しさ、安心感

先生にいろいろな思いを伝えよう

『チャット』を使って



Aさん

小学部2年生

4月 新しいクラス・先生・友達との「新学年・学期」がスタート

## Aさん

◎知的障がいを伴う自閉スペクトラム症

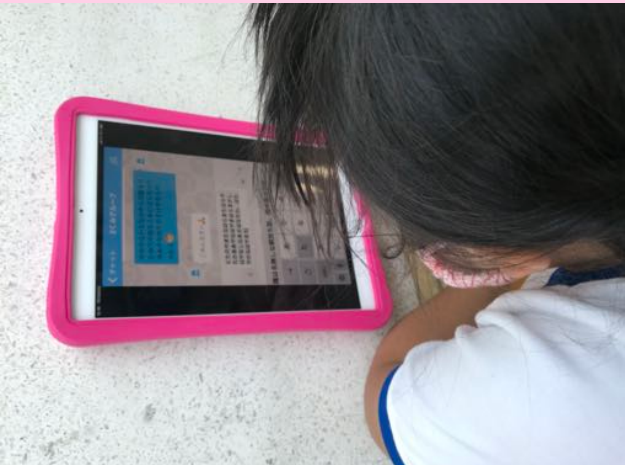
◎「〇〇がね、たのしかった」「だって、〇〇だから！」  
などのやりとりができる

◎簡単な短文を読んで理解することができる

◎きまりを守ったり、決めたことをやり遂げようと頑張ったりできる

◎ダンス、外遊び、クッキング、可愛いキャラクターなど好きなこと得意なことが色々ある

知らないことや不得手なことが不安



## 知らないことや不得手なことが不安

新しい授業で何をするのか心配

知らないダンスは分からないからイヤだなあ

初めての先生がくるのは怖いなあ

新しい「ゲーム」で負けてしまったから、もう苦手になったよ

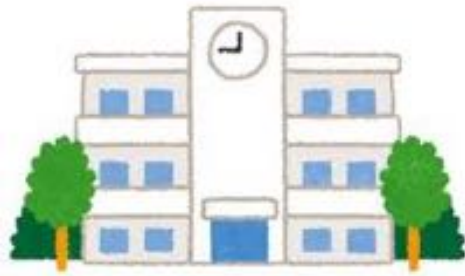
苦手な給食献立の日だ、どうしよう

取り組んだこと 事前に予定や内容を伝える

取り組んだこと 相談しながらどうするか考える



学校の出来事についてのAさんの不安な思いを知る「手段」



心配だなあ  
いやだなあ



### お母さんからの連絡

- 「電話」や「連絡帳」のコメントから担任が知ってAさんに確かめる

Aさんは学校での不安な気持ちを、家の人に伝えることができる

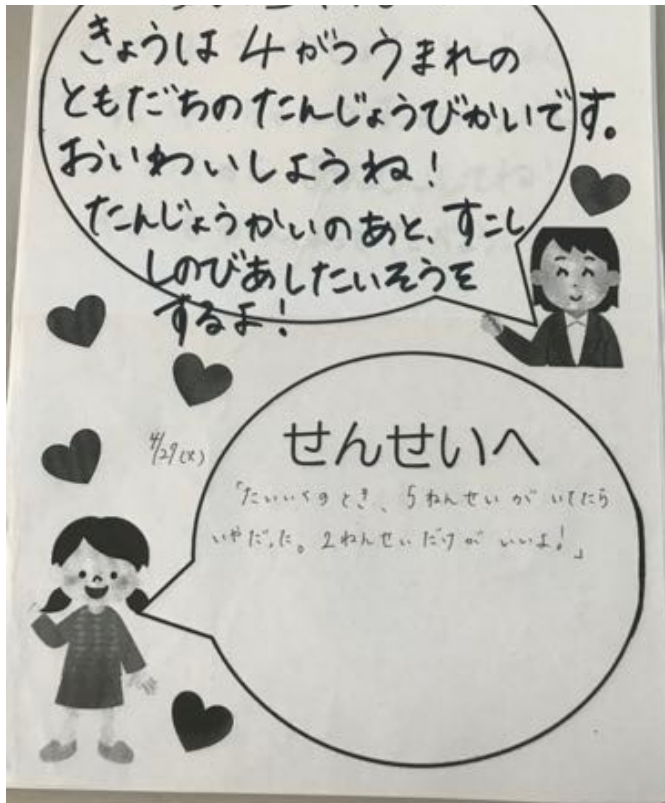
でも、  
担任には  
聞きたいことを尋ねたり  
気持ちを話したり  
できにくい

考えたこと

Aさんと、思いを直接伝え合えるようになれないだろうか？

# 毎日の「てがみ」のやりとり

文字を介してやりとりすることで、Aさんの気持ちを聞き取る



(上段：担任よりAさんへ)

Aさんが、不安を持ちそうな事の説明や、ポジティブに受け止めることができそうな話題を文章にして渡す



- ・上段だけの手紙を持ち帰り
- ・次の日に下段を書いて持参



(下段：Aさんより担任へ)

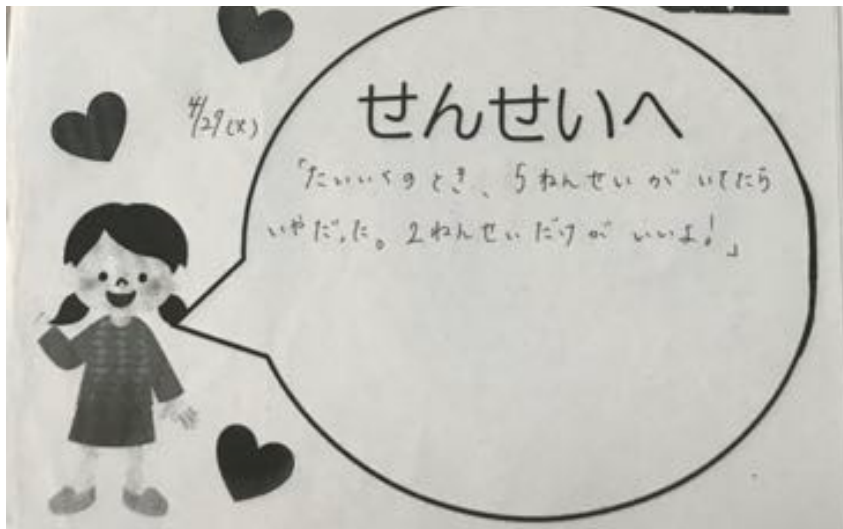
下校後、Aさんが家で話した思いを言葉通りにお母さんが代筆





## 毎日の「てがみ」のやりとり

Aさんと一緒に、手紙の内容を解決する方法を考えたり行動したりする



Aさん：「上級生がいてたらいやだった」

取り組んだ事：上級生の教室に遊びに行った  
数人の友達と個人的に関わる機会を持った

話してくれて嬉しいよ

**担任**

Aさんの様子

「〇〇いやなの」「怖かった」などの気持ちの話しかけが少しずつ増えてくる



「夏休み」を前にして考えたこと

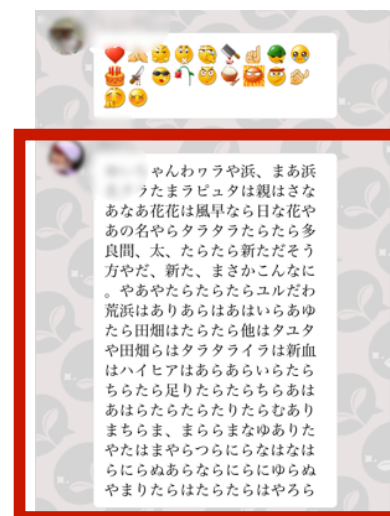
繋がりを途切れさせずにいたい  
できる方法で楽しいやりとりがしたい  
お互いにペースを合わせて取り組みたい

「チャット」を活用してみよう

# 夏休みに向けて 「チャット」 のやりとりを友達と初体験

アプリ：DropStep+ByTalk

目的：チャットで何ができるのかを理解する。入力の方法を知る。



Aさんの様子

- ・ とても楽しそうに取り組む
- ・ 文字をランダム入力（ひらがなフリック入力）
- ・ 画像や絵文字（スタンプ）の送り方を確認する

Aさんは自分で「チャット」の機能を使いこなせると予想

# 「夏休み」 担任との「チャット」でのやりとり

アプリ：DropStep+ByTalk

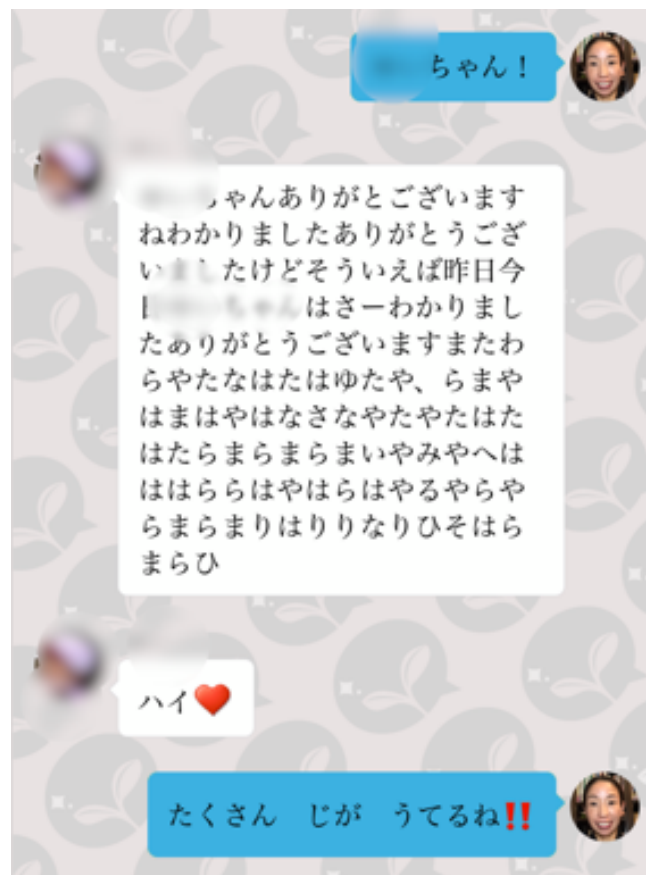
## 夏休み前

### < Aさんとの確認内容 >

- チャットをする日時  
(週に3回、時間10時から17時ごろ)
- 返事がすぐにできなくてもOK
- 内容は何でもOK
  - ・夏休みのできごと、気持ちなど
- 参加する先生 (3名)

・お母さんとも共有

## 夏休みスタート直後



Aさん

文字入力自体を楽しむ

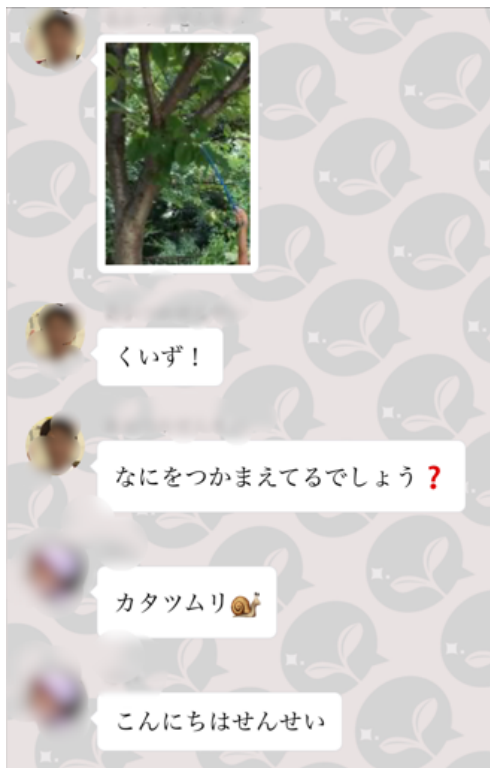
意識したこと

わかりやすい返信

# 「夏休み」 担任との「チャット」でのやりとり

アプリ：DropStep+ByTalk

## 7月終わり頃から：やりとりが会話らしくなってくる



Aさん

「せんせい」の呼び掛け

意識したこと

やりとりにつながりやすく  
・「クイズ」 「写真」

お母さんより

「自分で考えて呼びかけてました」  
「興味がなさそうな時は声をかけると、後で振り返っていました」

## 7月終わり頃から：文章を考えてやりとりできるようになる



Aさん

写真（保護者の協力）や絵文字やスタンプを活用して自分で入力

意識したこと

ポジティブ、楽しい会話  
文字の間違いは指摘しない

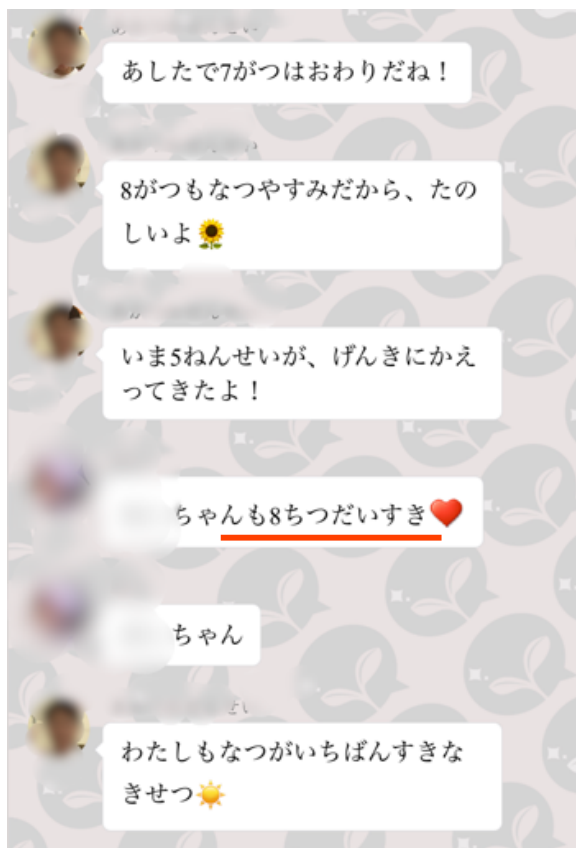
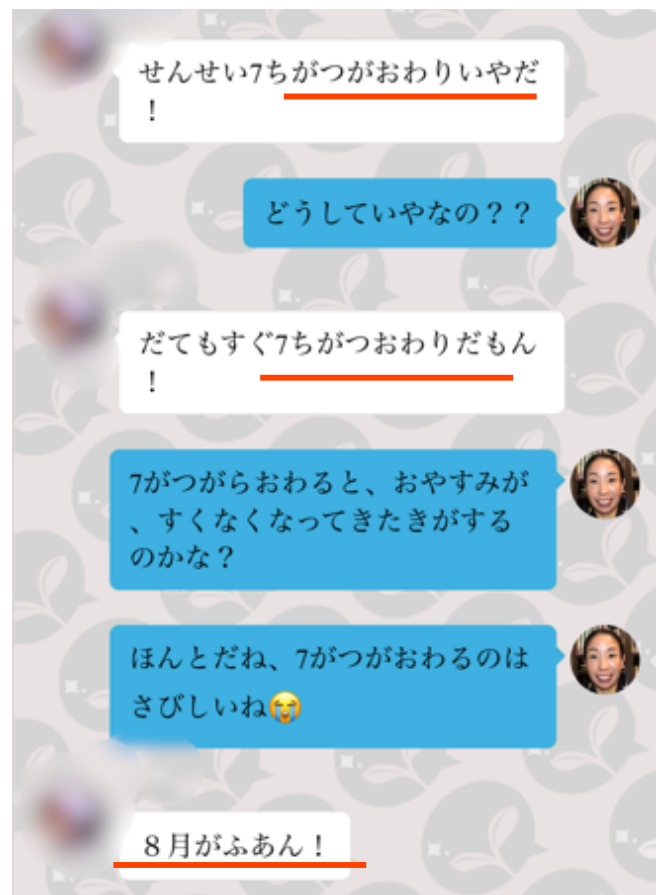
お母さんより

「返信をたのしみにしていたようです」

# 「夏休み」 担任との「チャット」でのやりとり

アプリ：DropStep+ByTalk

## 7月最終の頃：初めてAさんから「不安」の訴え



### Aさん

初めて「不安な気持ち」を自分で文字にして送ってくる

### 意識したこと

Aさんの気持ちを同じ目線で受け止める、励ます  
関わる担任間でAさんの気持ちを共有する

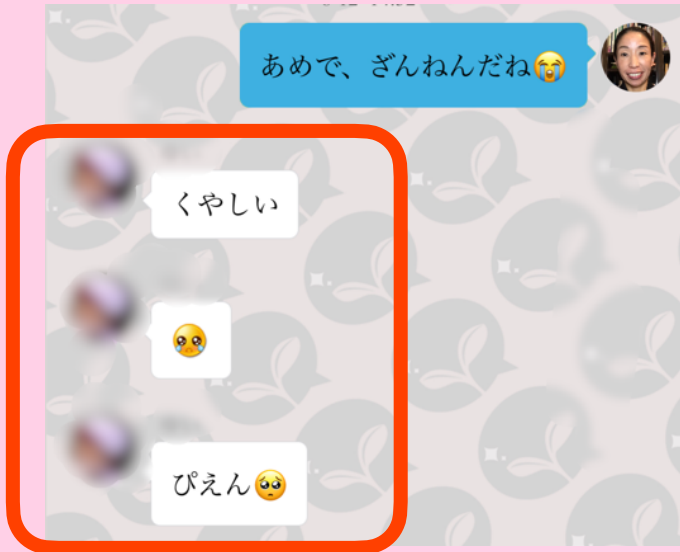
### お母さんより

その後の様子（チャットの後には不安を口にしなくなったこと）を後に聞き取る

# チャットを使ってAさんはとても豊かに気持ちを伝えてくれました



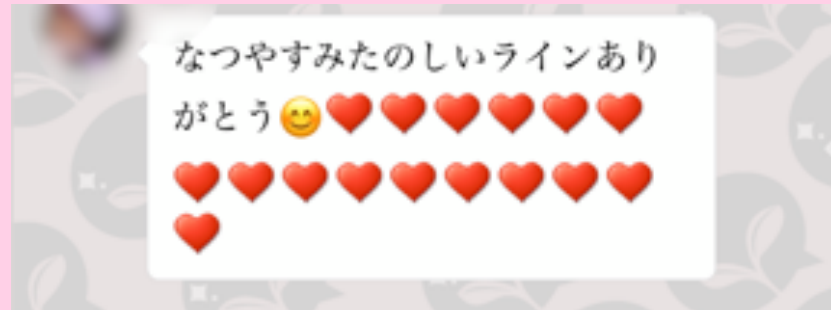
得意だよ!



残念



わかんない



たくさんの「ありがとう」と「❤️」

## 夏休みの「チャット」活用でやりとりが広がった理由

### ●話題は自分に関わること

「家庭での経験」が主な内容だったので、Aさんの「伝えたい」という気持ちが高まりやすかった

### ●チャットの機能はシンプル

「文字」「画像」「絵文字・スタンプ」を使ったシンプルなやりとり、また「時間を選ばない」やりとりが、Aさんの思いや気持ちの表しやすさにつながった

### ●保護者の協力

活用のルールや目的を学校と家庭で確認しあって、Aさんを連携して見守ることができた



ICTは将来の自立のためにも有効

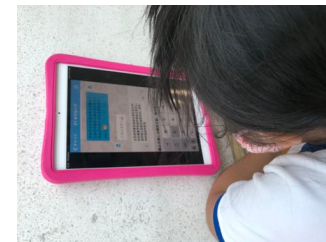
お母さんからのコメント



## Aさんとのこれから

コミュニケーションを広げる

いろいろな手段を活用しながら、伝えたい「内容」や「相手」を増やす



安心できることを増やす

伝えたことで解決できたという体験を重ねて、安心して学校生活を送る



楽しい出来事をみんなに伝えよう

『画像』を使って



Ｙさん

小学部１年生



Yさん

◎知的障がい

◎体幹機能障がい

◎5P マイナス症候群



ディサービスのサインは「ハート♡」

## Yさん

- ◎ 日常の簡単な言葉がわかる
- ◎ サイン、発声、ジェスチャーで報告
- ◎ 初めての場所や人、大きな音が不得手
- ◎ 文字や数はまだわからない

Yさんは、

## 友達が好き



友達のことをよく見ている

「〇〇くんがいる」「〇〇さんの靴」「〇〇さん泣いている」などと  
担任に友達のことをサインや指差しで伝えてくる

Yさんは、

## 自分から友達や先生に関わっていく

クラス・学年の先生に

サインを見せたり、  
声を出したり

色々な友達に

手を握ったり、肩を叩いたり  
顔をのぞいたり、真似をしたり

# Yさんのコミュニケーション

- ジェスチャー

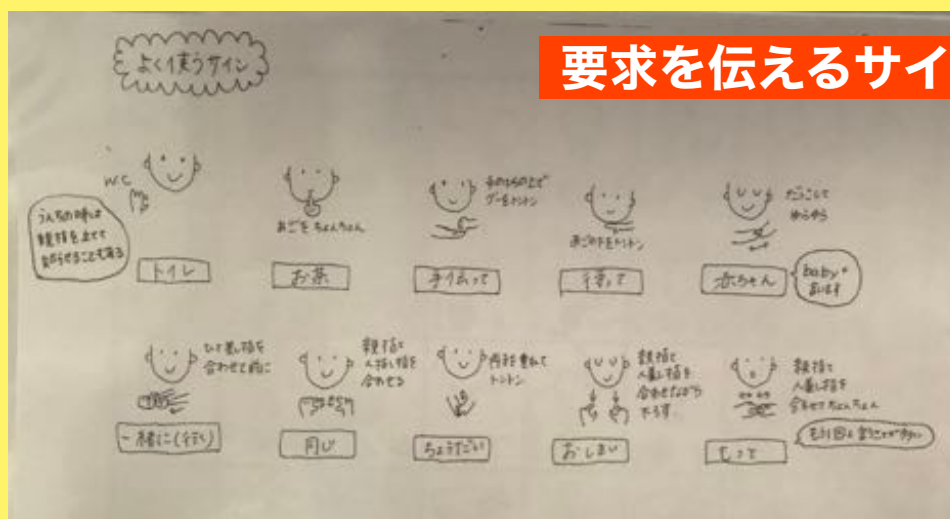
(頷く、首を横に振る、指差し、具体物を見せるなど)

- 単語

(「せんせい」「ママ」「いやー」など 発音できる音は限られる)

- サイン [約90程度]

(要求を伝えるサイン数種に加えて、様子、気持ち、動作等のサインも使う)



保護者から引き継いだサインブックよりピックアップ

色々な手段を組み合わせても、伝えられる内容は限られる

Ｙさんがすぐに使えて、  
誰でも分かりやすい、  
伝え合いのツール

考えたこと  
画像が手元があればやりとりが広がるのでは？



画像を使いながら  
体験したことを伝えよう

# 「一緒にした活動を見直してみよう」

＜休み時間・帰りの会＞

自分やクラスの友達の様子を皆んなで見る

アプリ：写真



Yさんにとってこの体験は？

- ・自分や友達の姿を見返して活動を振り返る
- ・友達を褒めたり褒められたりする

的倒し  
したね

〇〇くん  
かっこいい～

〇〇さん、  
がんばったね

**担任**

「iPad」を持ち帰り

## 学校以外の体験を伝えられるかな？

アプリ：写真

アプリ：写真



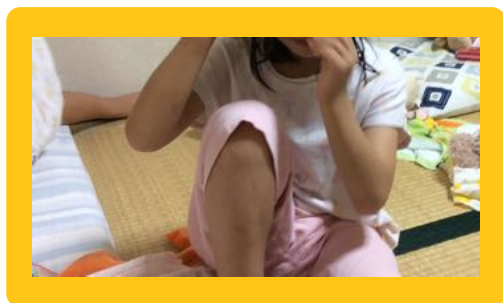
ふざけて遊ぶYさんのおもしろ動画をお母さんが撮影

(7月の連休)

**ポイント**

動画は短くてOK! (10秒~20秒程度) と確認





Yさんの「ねえ、みて！みて！」

違うクラスの友達に「見せて！」と言われてYさん大笑い

「iPad」を持ち帰り

## 学校のことを家の人に伝えられるかな？

アプリ：カメラ

<これまで>



(保護者)

- ・連絡帳の文章

31にち	1にち	2にち	3にち	4にち
げつようび きがえ あまのかい	かようび きがえ あまのかい	すいようび きがえ あまのかい	もくようび きがえ あまのかい	きんようび こうないふくとうごう あまのかい
おんがく きゆうしよく	たいいく きゆうしよく	しんぞうけんしん きゆうしよく	ずこく きゆうしよく	ひなめぐり かずことば きゆうしよく
きがえ かまりのかい 13:10下校	きがえ あまのかい 13:10下校	きがえ あまのかい 13:10下校	きがえ あまのかい 13:10下校	きがえ あまのかい 13:10下校

(Yさん)

- ・予定表を指差し
- ・サイン



(Yさん)

- ・画像

伝える手段が増えること



## 家でも「ねえ、見て見て！」 友達の誕生日会

アイコンも分かっているようで、自分で操作していて驚きました。

伝えられるのが嬉しいようで、朝一でパパに見せて、テレビ電話でおばあちゃんに見せていました。

誰の誕生日会かを、DropTalk（写真）で教えてくれました。お母さんからのコメント



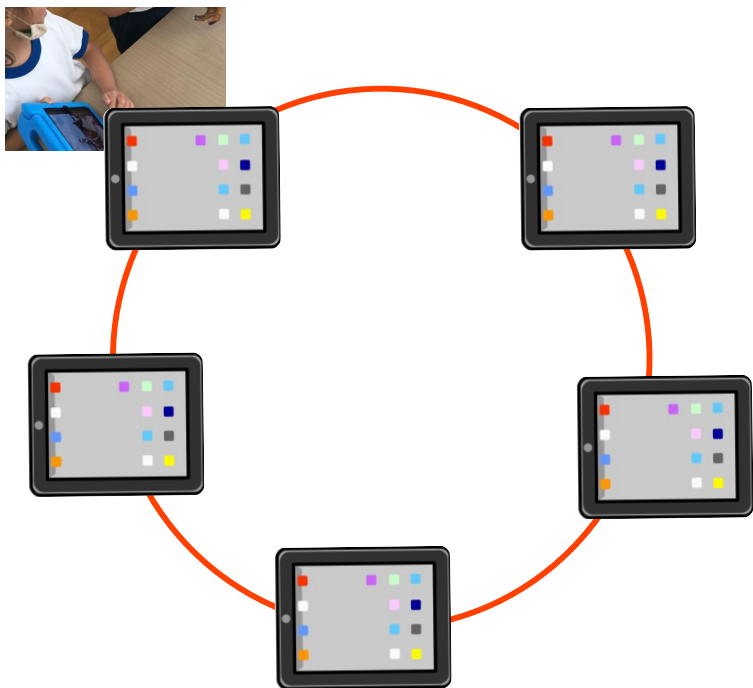


Yさんの「ねえ、みて！みて！」を支えるのは

「自分の体験」を自分で見せられること

## 2年生になったYさん クラスメイトみんながiPadを持ち帰る機会を持つ

一人1台タブレット = 画像を使ったやりとりが双方向になる



先行事例紹介

2013年度 魔法のランプ

東京学芸大学附属特別支援学校 幼稚部

- 学校の動画を週末に「連楽帳（タブレット）」で持ち帰る
- 週明けに週末の写真や動画を見せて遊ぶ時間の設定
- 保護者の協力を得ながら画像活用の良さを共有する

魔法のプロジェクトホームページ掲載 「活動報告書」 から引用





魔法のプロジェクト2021 ～魔法のMeasure～

「ICT」を使って、周囲とのコミュニケーションを広げよう

ありがとうございました